

ACIC年次フォーラム
平成26年5月31日
難聴と障害者権利条約

特別支援教育のもとでの 難聴児教育

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課
特別支援教育調査官 大西孝志

聴覚障害児を取り巻く、今

クリスマ

自然な聞こえ

家族と自然



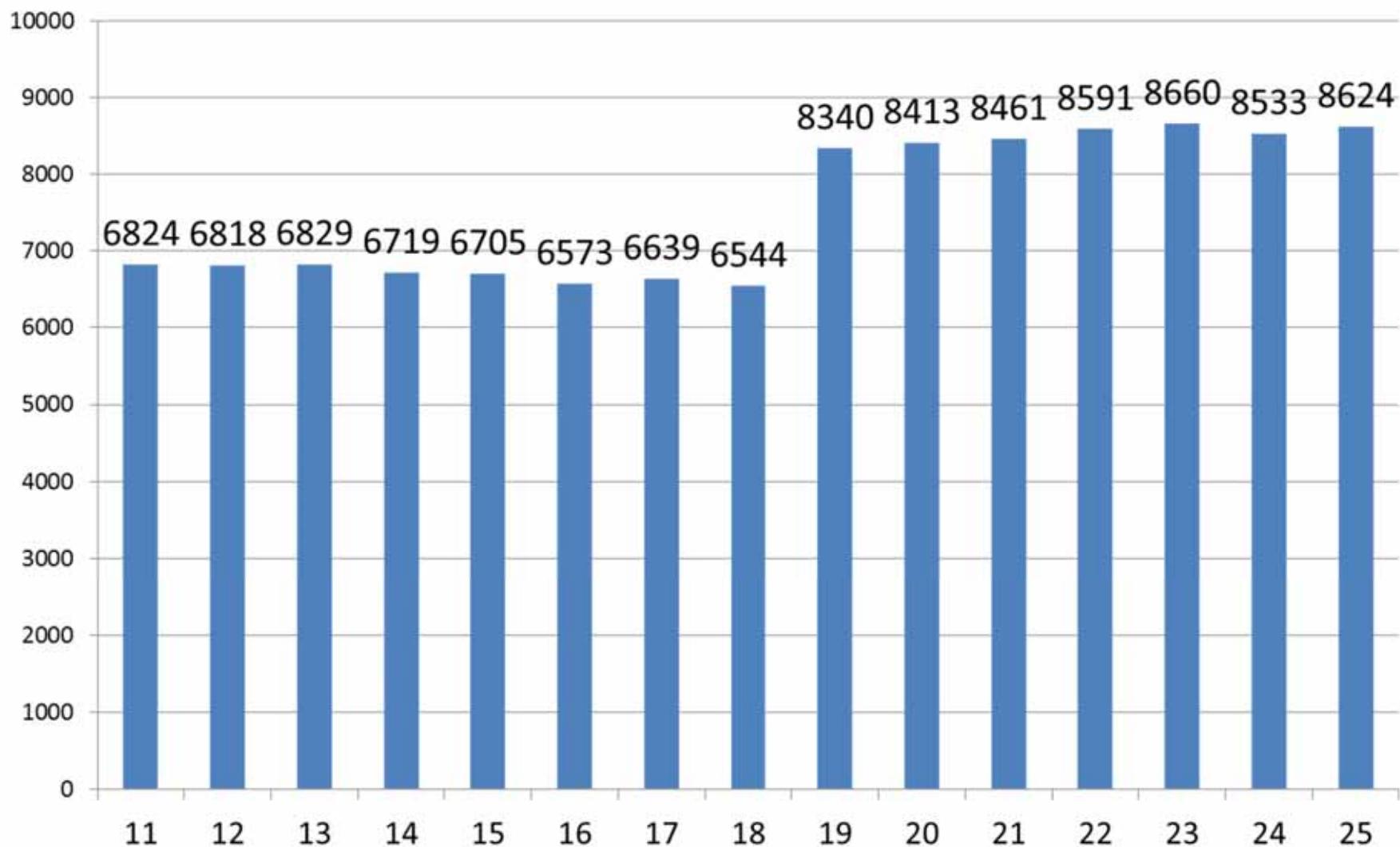
著作権があるのでホームページにはのせないでください。
当日の上映のみ



平成25年12月10日 朝日新聞全面広告

- 特別支援教育の普及(障害に対する理解)
- 聴覚障害に対する理解(情報・アクセシビリティ条例や手話条例等の動き)
- 教育に求められているもの
難聴の子供にどのような力を付けるのか？

聾学校・聴覚部門のある特別支援学校の在籍数



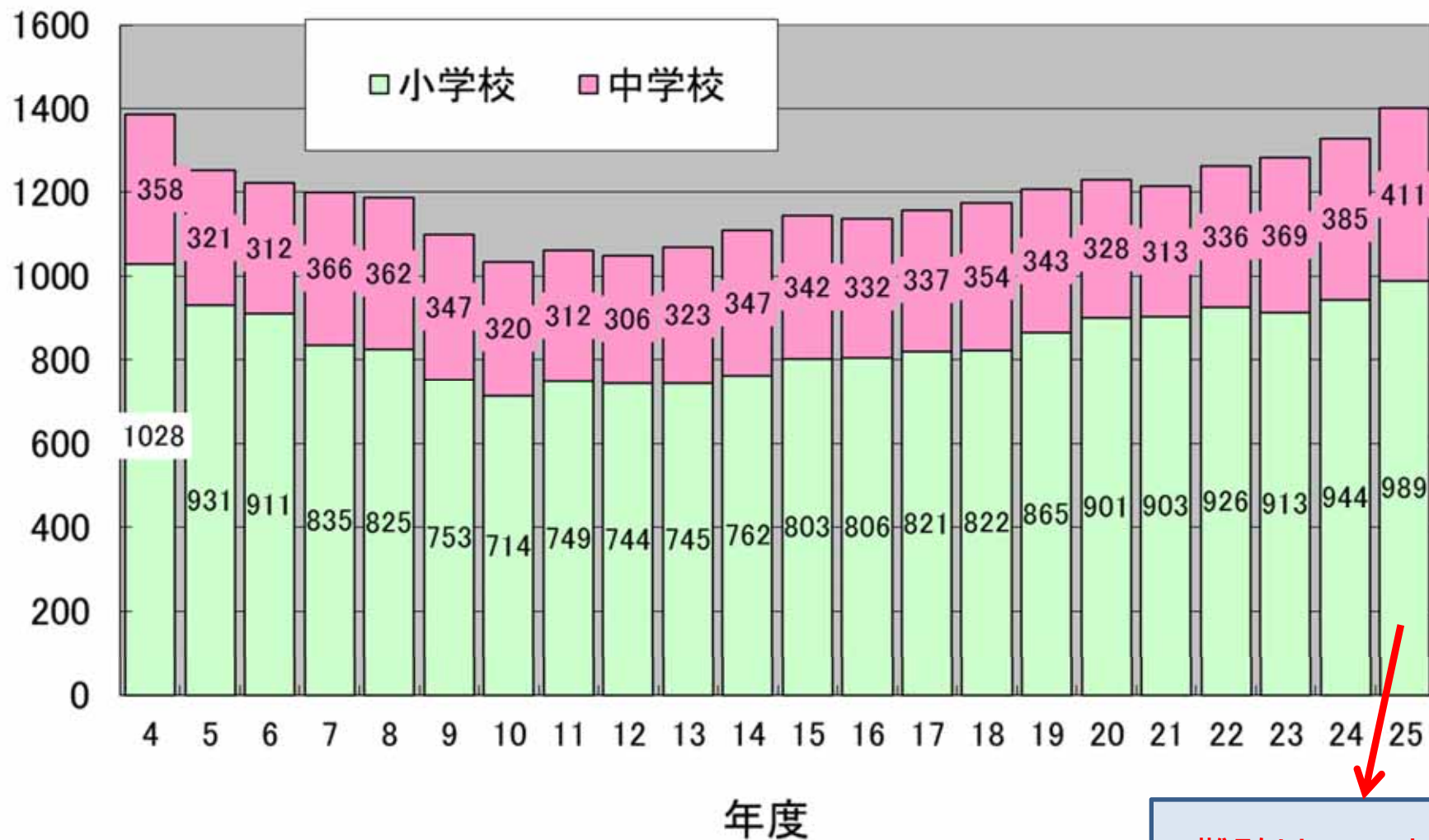
注：平成19年度以降の数値は、複数の障害種に対応できる特別支援学校制度へ転換したため、幼児児童生徒の障害種は学級編制により集計した。そのため、重複障害学級在籍者および複数の障害種に対応している学校についてはそれぞれの障害種に重複してカウントしている。（学校基本調査）

全国聾学校長会調べ 幼児児童生徒数

乳幼児	773	864	821	815	893	846	892
年度	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年
幼稚部	1254	1226	1199	1150	1175	1187	1207
小学部	2143	2152	2107	2047	2021	2002	1999
中学部	1279	1277	1344	1354	1376	1268	1254
高等部	1460	1545	1643	1548	1525	1477	1475
専攻科	263	228	226	252	259	243	203
合計	6399	6428	6519	6351	6356	6177	6138

聾学校長会4,1付け調査のため、学校基本調査とは若干の差がある。
平成26年度は明晴学園、あわじ特別支援学校、相模原中央支援学校を含む

難聴特別支援学級人数の推移



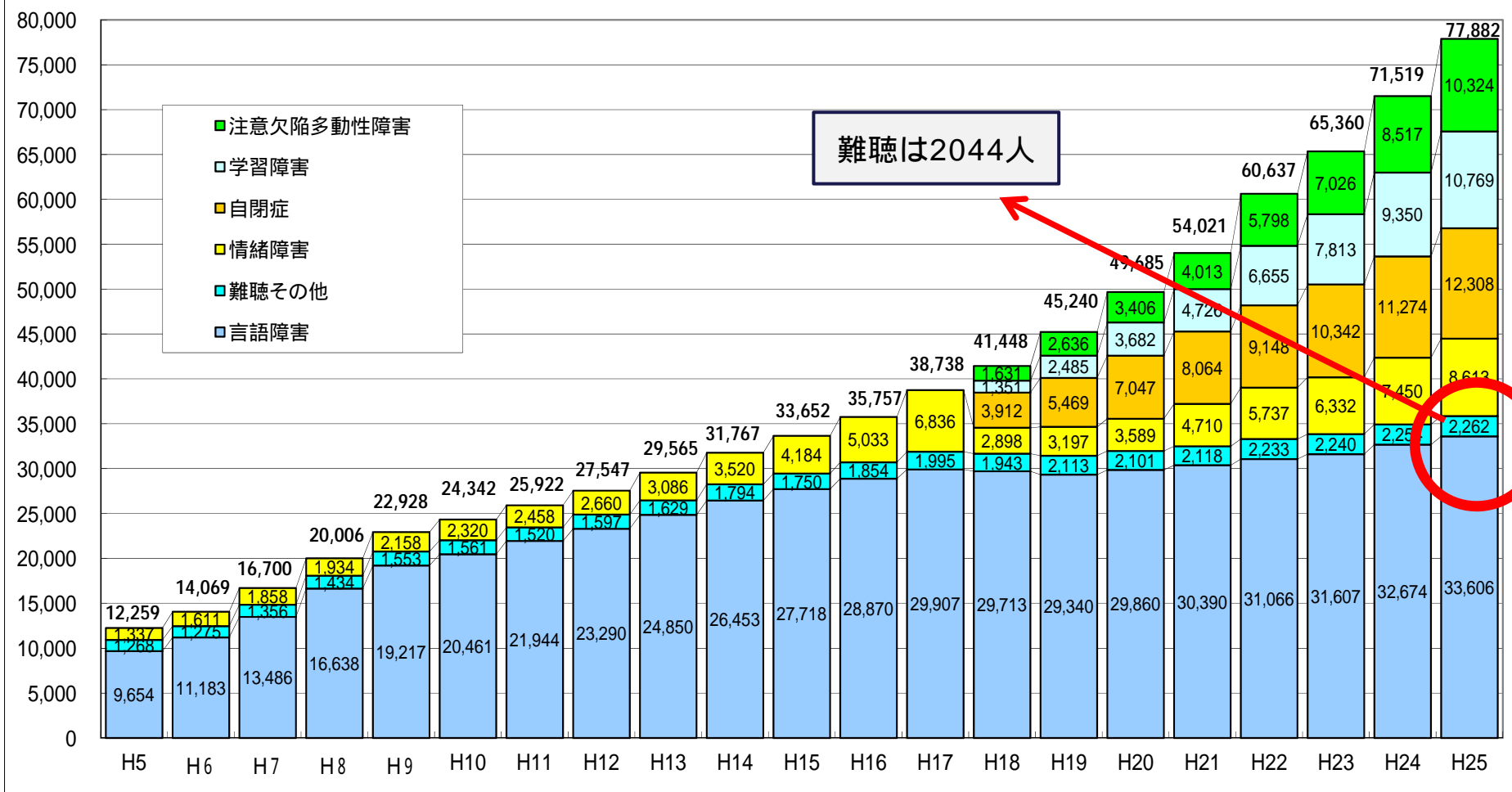
難聴は1400人

難聴特別支援学級の増加と1学級あたり人数

	20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度	
	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数
小学校	497	901	520	903	544	926	550	913	585	944	626	989
学級あたり	1.81人		1.73人		1.70人		1.66人		1.61人		1.57人	
中学校	209	328	194	313	206	336	228	369	243	385	262	411
学級あたり	1.56人		1.61人		1.63人		1.61人		1.58人		1.56人	
合計	706	1229	714	1216	750	1262	778	1282	828	1329	888	1400
学級あたり	1,74人		1.70人		1,68人		1.64人		1.60人		1,57人	

1. 特別支援教育の現状 ~ 通級による指導の現状(平成25年5月1日現在) ~

通級による指導を受けている児童生徒数の推移(公立小・中学校合計)



各年度5月1日現在

「難聴その他」は難聴、弱視、肢体不自由及び病弱・身体虚弱の合計

「注意欠陥多動性障害」及び「学習障害」は、平成18年度から新たに通級指導の対象として学校教育法施行規則に規定(併せて「自閉症」も平成18年度から対象として明示;平成17年度以前は主に「情緒障害」の通級指導教室にて対応)

聾学校における学部ごとの人工内耳の割合

	20年 度	21年 度	22年 度	23年 度	24年 度	25年 度	26年度
幼稚 部	18%	20%	23%	26%	29%	30%	32%
小学 部	16%	18%	18%	22%	24%	25%	28%
中学 部	5%	7%	10%	13%	17%	17%	21%
高等 部	4%	4%	5%	5%	8%	11%	13%
平均	11%	12%	13%	16%	19%	21%	24%

聾学校長会調査

6138名中1500名弱が人工内耳(26.4.1)

国内人工内耳装用者

- 国内の人工内耳装用者 約6500人
- 0才～18才までの人工内耳装用者約2500名

「聴覚障害」誌平成25年2月号 2012日本コクレア社調査

- 特別支援学校(聴覚障害)の幼小中高に
約1500名在籍 (乳幼児相談を除く)

平成26年4月現在

通常の学級に在籍する 聴覚に障害がある子供への適切な指導

- 科学技術の進歩、医学の進歩により、人工内耳、高性能補聴器を活用し、通常学級に在籍する聴覚障害児が増加している。
- この子供たちの
教育的ニーズに応じた指導とは？

情報保障

- 手話、文字情報、音声情報、映像情報など授業における多様なコミュニケーション手段は以前に比べると充実している。
- 教育という意図のもとでコミュニケーション手段を適宜選択することが重要。

学校における合理的配慮の観点及び 聴覚障害関係部分の例示

学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮	聞こえにくさを補うことができるようにするための指導を行う。(補聴器等の効果的な活用、相手や状況に応じた適切なコミュニケーション手段(身振り、簡単な手話等)の活用に関すること等)
学習内容の変更・調整	音声による情報が受容しにくいことを考慮した学習内容の変更・調整を行う。(外国語のヒアリング等における音質・音量調整、学習室の変更、文字による代替問題の用意、球技等運動競技における音による合図を視覚的に表示 等)
情報・コミュニケーション及び教材の配慮	聞こえにくさに応じた視覚的な情報の提供を行う。(分かりやすい板書、教科書の音読箇所的位置の明示、要点を視覚的な情報で提示、身振り、簡単な手話等の使用 等)また、聞こえにくさに応じた聴覚的な情報・環境の提供を図る。(座席の位置、話者の音量調整、机・椅子の脚のノイズ軽減対策(使用済みテニスボールの利用等)、防音環境のある指導室、必要に応じてFM式補聴器等の使用 等)

<p>学習機会や体験の確保</p>	<p>言語経験が少ないことによる、体験と言葉の結び付きの弱さを補うための指導を行う。(話合いの内容を確認するため書いて提示し読ませる、慣用句等言葉の表記と意味が異なる言葉の指導等)また、日常生活で必要とされる様々なルールや常識等の理解、あるいはそれに基づいた行動が困難な場合があるので、実際の場面を想定し、行動の在り方を考えさせる。</p>
<p>心理面・健康面の配慮</p>	<p>情報が入らないことによる孤立感を感じさせないような学級の雰囲気作りを図る。また、通常の学級での指導に加え、聴覚に障害がある児童生徒等が集まる交流の機会の情報提供を行う。</p>
<p>専門性のある指導体制の整備</p>	<p>特別支援学校(聴覚障害)のセンター的機能及び難聴特別支援学級、通級による指導等の専門性を積極的に活用する。また、耳鼻科、補聴器店、難聴児親の会、聴覚障害者協会等との連携による、理解啓発のための学習会や、児童生徒のための交流会の活用を図る。</p>
<p>幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮</p>	<p>使用する補聴器等や、多様なコミュニケーション手段について、周囲の児童生徒、教職員、保護者への理解啓発に努める。</p>

災害時等の支援体制の整備	放送等による避難指示を聞き取ることができない児童生徒に対し、緊急時の安全確保と避難誘導等を迅速に行うための校内体制を整備する
校内環境のバリアフリー化	放送等の音声情報を視覚的に受容することができる校内環境を整備する。(教室等の字幕放送受信システム 等)
発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮	教室等の聞こえの環境を整備する。(絨毯・畳の指導室の確保、行事における進行次第や挨拶文、劇の台詞等の文字表示 等)
災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮	緊急情報を視覚的に受容することができる設備を設置する。

これらの合理的配慮は例示であり、子供一人一人の障害の状態や教育的ニーズ等に応じて、これ以外の合理的配慮も検討される。また、これらの合理的配慮は本人及び保護者と、個別の教育支援計画を作成する中で、合意形成を図った上で決定し、提供されることが望ましい。

教育の役割 (口形・あいあいいいええ)

香於里 20歳

秋田市
秋

著作権があるのでホームページにはのせないでください。
当日の上映のみ

香織 28歳

七海 21歳

ちひろ 19歳

正解者の中から抽選で秋田市内の
ホテル宿泊券等が**100名様**に当たる！

● **キャンペーン詳細はこちら**
※キャンペーンの応募は何度でも可能ですが、
賞品の当選はお一人様一つとなります。

応募する

どのような力を育てるのか

1 口形読話 「あ」「い」「あ」「い」「い」「え」「え」

2 音声情報

3 経験からの類推

「明日にしてね」「貸したりしてね」「平らにしてね」

「たちまち消えて」「確かに閉めて」「たい焼き見てね」

「秋田にきてね」「秋田にしてね」「秋田に決めて」

斜体は両唇音を含むから判別可能

4 思考を伴う類推

観光客誘致の広告ならば……。

学校の役割は 3・4 の思考ができる子どもの育成である。1・2だけの指導は教育ではない。

読む力

しめた。この日、女の子ははだこです。

「ズミチをかってくださいいな」

女の子はよびかけました。

いえをびるよもズミチいらの女の子はくしをはこつてまこた。

なくなつたお母さんのです。

ふるいくつは女の子の足には大きくもまこた。

いふこでぬげなくなつてしまつたのです。

学校教育

- 自立し社会参加できる子供の育成
- 自ら考えて行動できる子供の育成
- 他者と積極的にコミュニケーションして共に生きていくことができる子供の育成

- 多様なコミュニケーション手段を活用し、
知・徳・体の「生きる力」を育てる